

サハリンにおけるハクチョウ類の渡りと保護

A. I. Zdorikov

私は、現在サハリン州狩猟局で狩猟と野生動物保護に関する仕事にたずさわっており、この部門の責任者である。

サハリンの鳥類については、すでにGizenko (1955) による「サハリン州の鳥類」に詳しく述べられている。今日の話は、この著書、サハリン在住の研究者であるG.A.VoronovやT.I.Neverovaなどの報告、私自身の観察にもとづいて、サハリンにおけるハクチョウ類の渡りについて述べる。

春の渡り

サハリン州はサハリンと千島列島からなり、Gizenkoによれば、オオハクチョウ、コハクチョウ、アメリカコハク [訳注：ロシアでコハクとアメリカコハクを別種としている] の3種が記録されている。

北海道を飛び立ったハクチョウ類が最初に飛来するのはブッセ湖やアニワ湾の一番奥にあるロンセイ湾である。また一部はツナイチャ湖に向かう。初認は3月中旬で、4月中・下旬が最盛期で、5月初めには一部の個体はアイワ湾を去って北へ向かう。今年(1993)の春には、早いものは3月8～12日に姿を現わし、4月18～20日には最盛期であった。毎年ここに集結する数は、オオハクチョウ、コハクチョウあわせて15,000～20,000羽である。

ハクチョウ類の渡りルートは主に3つある。1つは、アニワ湾からサハリンの最も狭い部分を越えて西海岸のアインスコエ湖に入り、それからサハリン北東部のアムール潟を通るルートである。アインスコエ湖で狩猟が始まると、ハクチョウ類はその少し北にある小さな二つの湖(禁猟区)に移動する。ここから西海岸沿いに北上を続け、アムール潟沿岸に至る。ここはツンドラ地帯で大小の湖沼があり、ハクチョウ類の採餌や休息に良いところである。この後西風が強い時にはバイカル湾に入り、シャンタル諸島方向に向かうが、東風が強い時にはアムール潟沿岸から大陸のアムール川下流域に向けて飛ぶ。もう1つは、アニワ湾からスサヤ川沿いに北上し、ネフスコエ(タライカ)湖に入るルートである。この時期この湖には一部開水面があり、ハクチョウ類は氷上で休息したり、開水面で採餌する。一部はここからホロナイ川沿いに北上し、東海岸のチャイヴォ湾、ピリツン湾を通り、シュミット岬を経て直接大陸に向かう。ただし、東風が強いと、バイカル湾に入り、それからシャンタル諸島方向に向かう。サハリンを通過するハクチョウ類では、コハクチョウのほうがオオハクチョウより早く渡り、南部での初認は1週間の開きがある。三番目のルートは、千島列島沿いである。このルートを通るのはオオハクチョウだけで、数もあまり多くなく、2,000～3,000羽である。

秋の渡り

秋の渡りはサハリン北部では10月20日頃に始まるが、渡来はコハクチョウの方が早い。秋の渡りルートは春の渡りと逆のルートである。渡来したハクチョウ類はまずバイカル湾で活発に採餌し、休息する。第一のルートでは、その後西海岸沿いにアインスコエ湖に入って休息し、それからサハ

リンの地峡を横断してアニワ湾に飛来し、ここでも採餌、休息する。しかし、東風が強いと、そのまま西海岸沿いに北海道まで渡る。第2のルートでは東海岸のピリツン湾、チャイヴォ湾に入り、天候次第でここにしばらく留まるが、それからネフスコエ湖に入る。ここから一部は直接北海道に渡るが、大部分はアニワ湾に向かう。普通サハリン南部に飛来するは、10月25日前後である。南部におけるオオハクチョウの渡り最盛期は11月上旬である。この時期には約30%が幼鳥である。千島列島ルートでは、移動は春に比べるとゆっくりである。時にはまた北に向かう事もあり、12月になって最も数が多くなる事もある。

繁殖と越冬

サハリン繁殖するのはオオハクチョウだけである。現在、繁殖しているのは北西部のアムール潟に面するツンドラ禁猟区地域である。繁殖つがい数は20～25である。ここはツンドラ地帯で、多くの湖沼があり、水鳥類の繁殖地として非常に良い環境を備えている。

千島列島では火山活動のため、冬でも凍結しない湖があり、全部で500～600羽が越冬する。これまで越冬が観察されたのは、色丹、国後、択捉、得撫、新知、武魯頓、計吐夷、温弥古丹、幌筵、占守の各島である。とくに色丹島の太平洋側は凍結しないため、200羽近くが越冬する。この他色丹島の住民の話では、1968～71年の冬には色丹島に全部で12羽のコククチョウが観察された事があるが、どこから飛来したかは不明である。これはオーストラリア産なので、多分日本の公園などの飼育個体が逃げ出し、飛来したものかもしれない。

ハクチョウ類の保護

サハリン州では1956年にハクチョウ類は禁猟となり、現在は3種ともレッドデータブックに記載されている。[旧ソ連レッドデータブック(1984)ではコハクチョウだけ、ロシア共和国レッドデータブック(1983)ではコハクチョウとアメリカコハクの2種、ソ連極東レッドデータブック(1989)では3種とも記載]。この他、自然保護区(zapovednik)がホロナイスク(ネフスコエ湖の東半分とテルベニア半島)クリルスク(国後島の一部と色丹島の一部)の2ヶ所、禁猟区(zakaznik)が11ヶ所ある。このうち5ヶ所は湿原・湖沼地帯である。これらのうち、ハクチョウ類のルート上にあつて重要なのは、アインスコエ湖(日ソ渡り鳥保護など条約に基づく指定)、アムール潟沿いのツンドラ、ツナイチャ湖近くのドブロツコエ湖、アレーニ、ピリツン湾、チャイヴォ湾である。

給餌はブッセ湖畔にあるオホーツコエ村の住民が小規模に行なっている程度である。

春の狩猟は4月下旬～5月初めに始まるが、開始日はサハリンの南部、中部、北部で異なり、北部ほど遅くなる。それぞれ地域で狩猟が始まる時期には、すでにハクチョウ類の大部分はそれより北部に渡っているので、狩猟の影響を受ける事は殆どない。

サハリンは17の行政区に分けられているが、今後禁猟区を5～6ヶ所新設し、これまでの禁猟区と併せて各行政区に禁猟区が1ヶ所できるようにしたいと考えている。

[これは1993年4月17日美唄市郷土資料館で行なわれた日本白鳥の会第17回現地研修会と19日浜頓別での講演(質疑応答を含む)の要旨で、講演の録音とメモにもとづいて藤巻裕蔵がまとめたものである。]